

13	文化学園大学杉並高等学校	H28～R1
----	--------------	--------

令和元年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

グローバル化時代に対抗できる人材の育成を目指し、「言語技術」「科学リテラシー」「価値観」「智慧」を育成するためのデュアル・カリキュラム導入による指導内容、学習方法、評価方法に関する研究開発

2 研究の概要（別紙1：研究の概要図 ※様式自由）

高校1年次から3年次にかけて、日本の文化・伝統を継承したうえでこれからの社会で求められる「国際社会で生きる上で必要な価値観、異文化理解」「智慧（批判的、論理的思考）」等を身に付けるためにデュアル・カリキュラム（日本のカリキュラムとカナダ ブリティッシュ コロンビア州のカリキュラム）を導入し、その効果的な運用を図るための指導内容や学習方法、評価方法を開発する。具体的には①BC州カリキュラムと日本カリキュラムの融合に関する研究（指導内容）②生徒、教員が身に付けた力を客観的に判断できるようなルーブリックの作成に関する研究（評価方法）③生徒の進路選択に与える影響に関する研究（進路指導）を行う。

3 研究開発の経緯

	実施内容等
第一年次	<p>平成28年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営指導委員会を編成、設置し以下の内容に取り組む ①ルーブリックの作成、検証 ②BC州カリキュラムと日本カリキュラムの対応表の作成 ③言語技術を評価する各外部試験の検証 ④海外校を中心とした進路資料の作成 <p>高校1年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「数学I」「数学A」に代わりBC州の「Mathematics 10」をBC州教員が英語で210時間授業を行う。その内140時間は日本人の数学教員もBC州の授業に入り、Co-teachingを行う。 ・「化学基礎」「生物基礎」、高2に行われる「地学基礎」に代わりBC州の「Science 10」をBC州教員が英語で175時間授業を行う。その内70時間は日本人の理科教員もBC州の授業に入り、Co-teachingを行う。 ・「コミュニケーション英語I」に代わりBC州の「Language art 10」をBC州教員が英語で350時間授業を行う。 ・「総合的な学習の時間」に代わりBC州の「Planning 10」をBC州教員が英語で70時間授業を行う。 <p>高校2年生</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・「英語表現」に代わりBC州の「Language art11」をBC州教員が英語で280時間授業を行う。 ・「総合的な学習の時間」に代わりBC州の「Planning 10」をBC州教員が英語で70時間授業を行う。 ・「倫理」に代わりBC州の「Social studies 11」をBC州教員が英語で140時間授業を行う。 <p>(・「地学基礎」に代わりBC州の「Science 10」を高1でBC州教員が英語で175時間授業を行う) 高校1年の欄に記載済み</p>
<p style="text-align: center;">第二年次</p>	<p>平成29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営指導委員会で以下の内容に取り組む。 <ol style="list-style-type: none"> ①作成ルーブリック使用、バージョンアップ ②BC州カリキュラムと日本カリキュラムを融合した授業の実施 ③生徒の言語技術の評価、分析 ④生徒の進路意識調査、個別カウンセリング ⑤BC州カリキュラム Graduation Transition に関する研究、概念共有 <p>高校1年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生物基礎」は「Science10」「Chemistry11」「Physics11」で読替える。 ・「コミュニケーション英語Ⅰ」を「Language Arts 10」で読替える。 <p>「Language art 10」はBC州教員が英語で350時間授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」を「Planning 10」で読替える。 <p>「Planning 10」はBC州教員が英語で70時間授業を行う。</p> <p>高校2年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「倫理」を「Social Studies 11」で読替える。 <p>「Social studies 11」はBC州教員が英語で140時間授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「数学Ⅱ」と「数学B」を「Mathematics 10, 11, 12」で読替える。 <p>「Mathematics10, 11, 12」はBC州教員が英語で各学年140時間授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地学基礎」を「Science 10」「Chemistry 11」「Physics 11」「Chemistry 12」で読替える。 ・「英語表現」「英語会話」を「Language Arts 11」で読替える。 <p>「Language Arts 11」はBC州教員が英語で280時間授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」を「Planning 11」で読替える。 <p>「Planning 11」はBC州教員が英語で70時間授業を行う。</p> <p>高校3年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「英語表現Ⅱ」及び「コミュニケーション英語Ⅱ」を「Language Arts 12」で読替える。 <p>「Language art 12」はBC州教員が英語で280時間授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」を「Graduation Transitions」で読替える。 <p>「Graduation Transitions」はBC州教員が英語で140時間授業を行う。</p>

<p style="text-align: center;">第三年次</p>	<p>運営指導委員会で以下の内容に取り組む</p> <p>①作成ルーブリックの使用、バージョンアップ</p> <p>②BC州カリキュラムと日本カリキュラムを融合した授業の実施・振り返り</p> <p>③生徒の言語技術の評価・分析</p> <p>④生徒の進路意識調査、個別カウンセリング</p> <p>⑤3年間を見通した指導の学内での共有</p> <p>高校1年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生物基礎」は「Science10」「Chemistry11」で読替える。 ・「コミュニケーション英語Ⅰ」を「Composition 10」と「Literary Studies 10」で読替える。 <p>「Composition 10」と「Literary Studies 10」はBC州教員が英語で350時間授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」を「Career-life Education 10」で読替える。 <p>「Career-life Education 10」はBC州教員が英語で70時間授業を行う。</p> <p>高校2年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「倫理」を「Social Studies 11」で読替える。 <p>「Social Studies 11」はBC州教員が英語で140時間授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「数学Ⅱ」と「数学B」を「Mathematics 11,12」で読替える。 <p>「Mathematics11,12」はBC州教員が英語で各学年140時間授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「物理基礎」を「Physics 11」で読替える。 ・「英語表現」「英語会話」を「Language Arts 11」で読替える。 <p>「Language Arts 11」はBC州教員が英語で280時間授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」を「Planning 11」で読替える。 <p>「Planning 11」はBC州教員が英語で70時間授業を行う。</p> <p>高校3年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「英語表現Ⅱ」及び「コミュニケーション英語Ⅱ」を「Language Arts 12」又は「Communication English 12」で読替える。 <p>「Language art 12」又は「Communication English 12」はBC州教員が英語で280時間授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」を「Graduation Transitions」で読替える。 <p>「Graduation Transitions」はBC州教員が英語で140時間授業を行う。</p>
<p style="text-align: center;">第四年次</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営指導委員会で以下の内容に取り組む <p>①4年間の研究のまとめ</p> <p>高校1年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生物基礎」は「Science 10」, 「Chemistry 11」で読替える。 <p>「Science 10」はBC州教員が英語で140時間授業を行い、その内35時間は日本人教員とのCo-teachingを行う。</p> <p>「Chemistry 11」はBC州教員が英語で140時間授業を行う。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニケーション英語Ⅰ」を「Composition 10」と「Literary Studies 10」で読替える。 「Composition 10」と「Literary Studies 10」はBC州教員が英語で350時間授業を行う。 ・「総合的な学習の時間」を「Career-life Education 10」で読替える。 「Career-life Connections 10」はBC州教員が英語で70時間授業を行う。 <p>高校2年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「倫理」を「Explorations in Social studies 11」で読替える。 「Explorations in Social studies 11」はBC州教員が英語で140時間授業を行う。 ・「数学Ⅱ」と「数学B」を「Pre-Calculus 11,12」で読替える。 「Pre-Calculus 11,12」はBC州教員が英語で各学年140時間授業を行う。 ・「物理基礎」を「Physics 11」で読替える。 「Physics 11」はBC州教員が英語で140時間授業を行う。 ・「英語表現Ⅰ」「英語会話」を「Composition 11」と「Literary Studies 11」で読替える。 「Composition 11」と「Literary Studies 11」はBC州教員が英語で280時間授業を行う。 ・「総合的な学習の時間」を「Career-life Education 11」で読替える。 「Career-life Education 11」はBC州教員が英語で70時間授業を行う。 <p>高校3年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「英語表現Ⅱ」及び「コミュニケーション英語Ⅱ」を「English Studies 12」で読替える。 「English Studies 12」はBC州教員が英語で280時間授業を行う。 ・「総合的な学習の時間」を「Career-life Connections 12」で読替える。 「Career-life Connections 12」はBC州教員が英語で140時間授業を行う。
--	---

4 研究開発の内容

(1) 研究仮説

英語力

BC州の「Social Studies 10・11」「Mathematics 10・11・12」「Science 10」「Chemistry 11」「Physics 11」「Chemistry 12」「Physics 12(選択)」「English Language Arts 10・11・12」「Career-life Education 10・11」「Literature Studies 12(選択)」「Career-life Connections 12」の授業をBC州教員が英語で行うことにより、各教科で必要とされる専門的な英語の語彙数

が増加する。またアクティブラーニング主体の授業を進めることにより、リスニング力、ライティング力、リーディング力、スピーキング力が従来の日本のカリキュラムと比べて飛躍的に向上し、さらに問題解決力、深い思考力、コミュニケーション力、豊かな表現力、並びにプレゼンテーション力を伸ばすことができる。と考える。

その結果、ダブルディプロマコースの生徒は高校卒業時全員実用英語検定準1級に合格し、さらに50%以上は1級に合格する。また進学に関しては30%以上が海外大学へ進学する。またさらに以下の各項目の内容を達成することができる。

(2) 評価に関する取組

	評価方法等
第一年次	<ul style="list-style-type: none"> ・BC州の授業に関しては、各学期末考査後（7月、12月、3月）に各教科担当より生徒一人ひとりにBC州の授業における本校生の達成度とコメントを記載した成績表を3者面談で説明と共に手渡す。 ・BC州教育省からの視察団が年に1度来校し（10月）、授業がBC州の計画通り行われているか視察し、その結果をBC州海外校のホームページで掲載する。 http://www2.gov.bc.ca/gov/content/education-training/administration/kindergarten-to-grade-12/international-education/offshore-schools/certified-offshore-schools ・国内の全国模試（11月）とGTEC（1年生9月、2年生6月・12月、3年生6月）を受験し、英語力の向上具合を知る。 ・進路希望調査により、海外大学希望者の数を知る。 ・定期考査後、各教科でダブルディプロマコースと他コース（特進、国際、総合）と成績の比較をする。（5月、7月、10月、12月、3月） ・BC州統一テストを受験することで、BC州の授業における達成度を測る。（3月） ・生徒に授業アンケートを実施（7月、12月）し、学力が向上しているか確認する。 ・本校独自のルーブリックを利用し、生徒の「価値観」と「智慧」が向上したかを確認する。（7月、3月） ・学年終了時、高校1年生は全員英語検定試験2級に、高校2年生は準1級に合格しているか確認する。
第二年次	<ul style="list-style-type: none"> ・BC州の授業に関しては、各学期末考査後（7月、12月、3月）に各教科担当より生徒一人ひとりにBC州の授業における本校生の達成度とコメントを記載した成績表を3者面談で説明と共に手渡す。 ・BC州教育省からの視察団が年に1度来校し（10月）、授業がBC州の計画通り行われているか視察し、その結果をBC州海外校のホームページで掲載する。 http://www2.gov.bc.ca/gov/content/education-training/administration/kindergarten-to-grade-12/international-education/offshore-schools/certified-offshore-schools ・国内の全国模試（11月）とGTEC（1年生9月、2年生6月・12月、3年生6月）を受験し、英語力の向上具合を知る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査により、海外大学希望者の数を知る。 ・定期考査後、各教科でダブルディプロマコースと他コース（特進、国際、総合）と成績の比較をする。（5月、7月、10月、12月、3月） ・BC州統一テストを受験することで、BC州の授業における達成度を測る。（3月） ・生徒に授業アンケートを実施（7月、12月）し、学力が向上しているか確認する。 ・本校独自のルーブリックを利用し、生徒の「価値観」と「智慧」が向上したかを確認する。（7月、3月） ・学年終了時、高校1年生は全員英語検定試験2級に、高校2年生は準1級に合格しているか確認する。 ・上記の評価を昨年度と比較する。
第三年次	<p>BC州の授業に関しては、各学期末考査後（7月、12月、3月）に各教科担当より生徒一人ひとりにBC州の授業における本校生の達成度とコメントを記載した成績表を3者面談で説明と共に手渡す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BC州教育省からの視察団が年に1度来校し（10月）、授業がBC州の計画通り行われているか視察し、その結果をBC州海外校のホームページで掲載する。 http://www2.gov.bc.ca/gov/content/education-training/administration/kindergarten-to-grade-12/international-education/offshore-schools/certified-offshore-schools ・国内の全国模試（11月）とGTEC（1年生9月、2年生6月・12月、3年生6月）を受験し、英語力の向上具合を知る。 ・進路希望調査により、海外大学希望者の数を知る。 ・定期考査後、各教科でダブルディプロマコースと他コース（特進、国際、総合）と成績の比較をする。（5月、7月、10月、12月、3月） ・BC州統一テストを受験することで、BC州の授業における達成度を測る。（3月） ・生徒に授業アンケートを実施（7月、12月）し、学力が向上しているか確認する。 ・本校独自のルーブリックを利用し、生徒の「価値観」と「智慧」が向上したかを確認する。（7月、3月） ・学年終了時、高校1年生は全員英語検定試験2級に、高校2年生は準1級に合格しているか確認する。 ・上記の評価を一昨年度及び昨年度と比較する。 ・生徒・教員の自己変容割合を測定する質問紙の作成・実施し、どのような活動が価値観の変化につながったかの分析を行う。
第四年次	<ul style="list-style-type: none"> ・BC州の授業に関しては、各学期末考査後（7月、12月、3月）に各教科担当より生徒一人ひとりにBC州の授業における本校生の達成度とコメントを記載した成績表を3者面談で説明と共に手渡す。

	<ul style="list-style-type: none"> ・BC州教育省からの視察団が年に1度来校し（10月）、授業がBC州の計画通り行われているか視察し、その結果をBC州海外校のホームページで掲載する。 http://www2.gov.bc.ca/gov/content/education-training/administration/kindergarten-to-grade-12/international-education/offshore-schools/certified-offshore-schools ・国内の全国模試（11月）とGTEC（1年生9月、2年生6月・12月、3年生6月）を受験し、英語力の向上具合を知る。 ・進路希望調査により、海外大学希望者の数を知る。 ・定期考査後、各教科でダブルディプロマコースと他コース（特進、国際、総合）と成績の比較をする。（5月、7月、10月、12月、3月） ・BC州統一テストを受験することで、BC州の授業における達成度を測る。（3月） ・生徒に授業アンケートを実施（7月、12月）し、学力が向上しているか確認する。 ・本校独自のルーブリックを利用し、生徒の「価値観」と「智慧」が向上したかを確認する。（7月、3月） ・学年終了時、高校1年生は全員英語検定試験2級に、高校2年生は準1級に合格しているか確認する。 ・上記の評価を以前の3年間と比較する。
--	--

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

21世紀型教育を標榜し、生徒をこれから先の「解なき社会」に向けて準備させることを目的として作られたBC州のカリキュラムを日本のカリキュラムの一部に融合した結果、対象の本校ダブルディプロマコースの生徒は、英語力だけでなく、思考力やコミュニケーション能力、さらにはプレゼンテーション能力という点でも、本校の他コースの生徒よりも高い成果を得た。

全教員へのアンケートの結果、学園祭や学年で行なわれたプレゼンテーションに於いて他コースに比べプレゼンテーション力に格段の違いが有ることが判明した。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

BC州カリキュラムは知識の習得ではなく、知識の活用方法や得た知識の検証を適切にすることが目的となっている。そのため、知識から応用までの思考を中心に求める日本の大学入試を考えた際に、一般入試で進学希望を持つ生徒や保護者からは不安の声が上がっている。さらに大学入試センター試験の時期にBC州の統一試験が行われるため、国内大学受験希望者への進路指導の対応を考慮する必要がある。